



総会に寄せて

三神前会長を名誉会長に推戴

総会において山崎会長から三神前会長を名誉会長に推挙したい旨提案、承認を求められた途端に万雷の拍手が会場を圧しました。それは出席会員一人残らずの同意というより、先生ご退任の日から、輝かしい三神会長のお名前を不滅のものとしたたい全会員の願いがここに実現した喜びの感動のこたまでであり、総会ご欠席の皆様も拍手も聞こえてくる思いの感激でございました。

日本女医学会名誉会長三神先生には今後、高次元のお立場でいらつしやいまして、今までと同様にと申しますよりそれ以上に指導ご教示を賜わり、日本女医学会の大切な重心となっております。心からお願ひ申し上げる次第でございます。

副会長 佐藤千代子

讀!! 東京都支部連合会

昨年三月より九月までの半年間、科学万博における医療救護活動に医師としての熱意を遺憾なく発揮され、日本女医学会の名を高揚されました連合会の先生方は、そのお疲れを癒す間もなく今年度総会の運営をご担当下さいました。企画、設営と細心のご準備をいただいただけに会の進行も手際よく、特別講演には深い感銘と反省の時を持ちました。その余韻さめやらぬ中に圧巻の懇親会、品位に満ちた絢爛豪華さはさすが東京!!と感激致すばかりでした。勘九郎丈の素晴らしい舞い、そしてその気迫。地方をつとめられました会員は主治医でいらつしやいます由、ウィオラ奏者もまた別の会員の患者さんとか。「医は心なり」何かじーんとするものを感じました。そして奇術をご披

復刊第107号 題字 吉岡弥生

露下さいました会員、お腕前に敬服したのは当然ですが、終始バントマームのこやかなお顔に「女医」の深さを感じました。

全体を通じて、それぞれの役務担当の先生方が準備の段階から大変なご苦労、ご負担をされていられることと推察致しますのに、気負いのないムードで、細かいお心くばりも非常にさわやかに、終始お尽くしいたいただきましたことが印象深く、感謝の念を禁じ得ませんでした。

さらに、懇親会における今野連合会会長のご挨拶「日本女医学会にとって会員の増加は緊急に大切なこと。連合会には八百人の会員がいる。会員一人一人が新会員を勧誘する努力をしたい。そして連合会の任務は日本女医学会の事業と国際女医学会に協力することである。力強いお言葉に思わず胸の熱くなる感動を覚えました。今回の総会を通じ、東京都支部連合会の真価を明確にお示しになりました会長と会員の皆様に深甚なる敬意と感謝を捧げたく存じます。

新規事業の推進に努力を

山崎会長の挨拶は「この一年、緊張の連続でした」の所感で始まりましたが、それだけに常時前向きな姿勢で、前会長の貴重な軌跡の上にさらに新しい路線を求め、女医として意義のある活動に連帯を!と熱意をこめて話されました。今までの事業の充実に加え、公衆衛生活動も積極的に推進したい。また荻野吟子賞

もくじ

Table listing contents of the journal, including sections like '総会に寄せて' (Introduction to the General Meeting), '総会議事録' (General Meeting Minutes), '特別講演/現代医学の反省' (Special Lecture/Reflections on Modern Medicine), and various awards. Includes names like 佐藤千代子, 三神 美和, 山崎 倫子, etc., and page numbers in parentheses.

受賞者は原則として会員とするが、その賞にふさわしい活動をされた会員外の女医にも認める条項を設定された意義を説明されました。また、これは理事会における報告ですが、昨年から今年にかけて全国支部からの要請で各地へ出向かれ、その他国連総会の政府代表代理としての報告会を各地婦人会で請われ出席の折に急遽、地区の会員が会合を開くなど、しばしば地区会員との懇談の機会を得られた喜びを語られました。今後その機会の増えることを切望する次第です。

多彩な縁に思う

新緑の素晴らしさ！ それは生命の躍動を象徴するかのようなつややかな表情と、その緑の多彩さにあるのではないのでしょうか。多彩な緑のそれぞれが、その個性を主張しながら周囲の異なる緑とふれ合い絡みあいして美しいハーモニーの木立となり森となり、風雪に堪える強さをも備えて生きています。

人間の世界も同じではないでしょうか。人それぞれの思索は異なり、同じ目的の問題に関して結論に到達するまでにいろいろ迂曲の道があつて当然と考へます。縁を混ぜ合わせるのではなく、自分の縁は堂々と自己主張し、そして他のすべての縁も理解して話し合いたい。人間社会はもっと謙虚に自然の叡智を見習うべきではないかと思ふこの頃です。こんなことを考へながらこの一年間

の女医会誌を熟読してみました。いろいろのお立場の先生方から実に多くの提言がなされているのに驚きました。学問を通じて若い女医との連繫を持つて始めて、地方でこそご意見も多く、ぜひこれらを検討の場にのせなければと思ひました。観点は異なりますが、卒寿を迎えたとして、大先輩の佐藤イッコ先生が熱情溢れる文を書いていて下

日本女医会名誉会長に推薦されて

三神 美和

風薫る五月二十五日の第三十一回日本女医会総会で、日本女医会名誉会長に推薦されましたことは、私にとって終生忘れられないことのない感銘であり、喜びであります。いまだかつてない名誉会長の称号を、この私が頂くことは思いもよらぬことでありまして、これを実現して下さった山崎会長はじめ役員の方々、また総会会場にお集まりの会員の皆様から厚くお礼申し上げます。

ような業績があつたかどうか自問自答を繰り返したのであります。大学では十五年以上教授であつた方々は名誉教授に推薦されることになつております。そこで私が十八年間、会長の席を汚したと、この長期ということに対し、大学と同じように名誉会長として遇して下さるのだと思ひ、ようやく気が楽になり、皆様のご好意に甘えた次第です。十八年間、過ぎてしまえば夢のようでありますが、その間、私が何とかぶじに会長の任に耐えられたのは、役員の方々はじめ、会員の皆様のご指導、ご援助、ご協力によるものであります。本当に長い間私を助けて下さりましてありがとうございます。改めて厚くお礼申し上げます。

さいました。「数は力なり」日本女医会発展のため、会員増加が急務である。地方での総会も支部の団結と会の力の伸展に大いに役立つので頑張っていたきたい。会費完納者には会誌と名簿を贈呈することは当然」と（今年には名簿を無償配布できました）。

十八年といえはその間いろいろのことがありました。数々の思い出がありますが、この際昭和四十二年の会長就任当時のことを思い出すまゝに書かせて頂きます。

昭和四十二年当時、日本女医会には確固たる定款もなく、次期会長決定をどうするかを総会で協議されました。

龍会長は旧女子医専の同窓会が輪番制にするがよいと主張されましたが、これは否決され、また各プロックから推薦候補を出すという案も不賛成となり、けっきょく「日本女医会として最良の人を選ぶ」という案が通り、理事会で記名投票を行ない、その結果、私が最高得票だったので、次期会長となり、四十二年五月から龍先生に代つて、会長に就任したのであります。当時私は女子医大の病院長として、また内科講座担任教授として多忙の日を送つておりましたので、とうていこの大任を果たし得ないように思ひ、自信がありませんでした。しかしその時まだ私は六十三歳であつて、今よりファイトがありまして、選ばれた以上やらねばならないと決意しました。当時の日本女医会には、その経済的基盤が弱く、事業どころか、会の運営もおぼつかない状態でした。龍先生ご提案の団体生命保険も総会で否定されましたので、経済を立て直すことが直面した問題でした。また社会的に認められるには、社団法人として認可されることが肝要であります。

それでこれらに向かつて第一歩を踏み出すために、会長就任の四十二年秋九月二十二日に臨時評議員会を、翌四十二年二月十一日に臨時総会を開きました。当時の記録によれば議題として、①社団法人設立の件、②医師年金制度加入の件、③定款改正起草委員の件、④会費値上げの件が協議され、いずれも可決され、委員会が発足して活動を開始したのであります。戦前の日本女医会は社会的に活発な活動をしており、再発足してまだ日が浅いとはいえ、日本の女医の結集された本会は、何か社会に貢献できる会であらねばならないと思ひつづけていた私にとって、親睦団体から脱皮し、一歩一歩成長する会になつていくことはうれしいことでありました。

この臨時総会で特筆すべきは、議題には出ておりませんが、故東条一子氏より、四十五年に開催される大阪万博に医療奉仕したらかの提案があり、私は日本女医会を社会にアピールするよい機会であると考へ、この提案を採択し、総会にはかり、総会の賛成を得たことあります。その直後出された日本女医会誌（四十二年四月、三十四号）に私は万博のことにふれ、万博協会に対しては無料奉仕であるが、医療参加の会員に対しては、会として何らかの報酬を出したい。そのための資金の捻出、また参加の方法など考へてみたいのでご協力してほしいと訴えております。

これらを受けて開催された広島における四十二年五月十八日の第十三回臨時総会は、日本女医会にとつて特筆すべきものであります。社団法人申請報告、年金制度実施経過報告など臨時総会で決定されたことが着々進行し、本会の前途に明るさを感じさせるものですが、それにも増して喜ばしいことは、荒川あや先生から、吉岡弥生賞の基金として一千万円を寄附されたことでした。また小出つる子先生が提案されたルーベングランを紹介され、これを万博資金作りに役立てたいとの申し入れのあつたことでした。このことにより会場から万雷の拍手がおこり、会場は湧きに湧いたのであります。この総会を契機として、吉岡弥生賞委員会、同規程などが決定され、四十四年大阪で開催された臨時総会で第一回目の授賞が行なわれたのであります。また大阪万博に対しては、四十二年九月十一日に万博本部に正式に医療役員参加を申し入れ、四十二年十二月二十四日付で、財団法人日本万国博覧会協会長石坂泰三氏よりの正式の依頼と感謝の言葉が広報第二〇八四号として届けられました。また医師年金も加入口数が順調にのび、資金面において少しの余裕ができてまいりました。

その後は万博準備に明け暮れる日がつづき、明けても暮れても、資金のこと、人員配置のこと、宿舎のことなど頭の休まる時がありませんでした。日本女医会誌復刊三十七号（四

十四年二月十日）から復刊四十四号（四十五年十月二十五日）まで、大阪万博医療奉仕の記事が至るところに見られ、とくに復刊三十九号から四十四号まではこの記事で埋めつくされております。これらを通読してまいりますと、その当時のさまざまの思い出がよみがえつてまいります。百八十三日間動員員数一千百人、雨の日も風の日も、極寒の時も炎熱の日も一日も休まず奉仕をつづけ得たことは、会員の皆様の熱意と至誠の賜であります。

会長挨拶

会長 山崎 倫子

本日は、全国津々浦々から多数の会員の皆様をお迎えして、第三十一回臨時総会が開かれますことは誠に同慶の至りであります。

ご立派な三神美和先生の後を引き継いではや一年、緊張の中でただ懸命に過ごして来たように思ひます。そして今さらのごとく、会長の任の重さとむずかしさを噛みしめております。

今年の総会は、東京都支部連合会がお引き受け下さり、昨夕来皆様に御お楽しみ頂いて下さるうちに、万端行き届いた準備をさせていただいております。今野連合会会長、役員をはじめ二十五支部の会員の皆

あり、一致団結の力であると思ひます。ただ感謝あるのみであります。心配していた資金面も予定額を越えて一千二百万円を得、医療奉仕の会員には交通費として、一日、五千円の割合でお礼を差し上げ、諸雑費を引いても剰余金が出ましたので、その点でもまずまずの成績でした。

第三十一回日本女医会定時総会特集

万博医療奉仕が成果をおさめ、またかねて申請中の社団法人も、四十四年十月十一日に正式認可がおりて、本会は名実ともに一本立ちした団体

様になら感謝し厚くお礼申し上げます。総会の重要事項は、昭和六十年年度事業報告および決算、六十一年度事業計画案および予算案のご審議をいただくこととあります。追つて各部担当理事から報告と説明を申し上げますのでよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

会の主たる動向については、年四回発行の会誌を通してご理解いただいていることと思ひますが、この機会に少々申述させていただきます。まず例年の通り、学術研究助成の募集を致しましたところ、全国から十八題の応募がございました。い

す

として認められるようになり、昭和四十二年五月会長をおひき受けから四十五年までの三年間をふり返つて見ますと、私は無我無中で嵐の真只中にいたような思いにかられるのであります。しかしこの三年間で現在の日本女医会の基礎の一部ができたように思つて、今さらのように、その当時の役員の皆様、会員の皆様のご厚意に感謝せずにはおられません。十八年間の思い出はつきぬものがありますが、つよく心

に研究も甲乙つけがたい立派なものであるとの選考委員一同の一致した感想でしたが、最終的に五名を決定しました。今後も優秀な女医の育成に精神的、経済的応援を続けてゆきたいと考へております。

さて、本年度の吉岡弥生賞は、前会長三神美和先生にお贈りすることに決定しました。先生のご功績については今さら申し上げるまでもないと思ひますが、あえて簡単に申し述べさせていただきます。

先生は、昭和四十二年日本女医会会長に就任以来、十八年の長きにわたつて会の発展に尽くされました。当時はまだ任意団体であり、社会的活動は微々たるものでしたが、昭和四十五年の大阪万博に際し医療奉仕を行なうことを決定、全国会員のご協力により百八十三日間にわたり二千人余の医療ボランティア活動を成功させました。同年、社団法人の認

可を受けるに至りました。五十一年には国際女医会総会および学術会議を招致、大成功をおさめたことはご承知の通りであります。国際会議の剰余金の一部をもって渋谷に独立した日本女医会会館を設けるとともに同じく剰余金の一部で会員のための研究助成制度を設けました。また一昨年、公許女医第一号、荻野吟子誕生百年記念行事を行ない、荻野吟子賞を設定するなど、数々のご功績がございます。十八年の間にはいく度も大きな波風にあおられ、大変なご心労があつたと思ひますが強い意志と忍耐力をもって、女医会に貢献下さいましたことに對し、皆様とともに感謝しお祝い申し上げます。

次に荻野吟子賞は、小俣喜久子先生と荒川あや先生のお二方に決まりました。小俣先生は、戦後日本女医会再建

感想一言
山を越え谷をわたりて十八年
到着点に榮待ちうく
よきこともあしきことも思ひ出は
すべてなつかし会員に謝す

(一九八六・六・八)

のため鶴風会代表の一人としてその組織作りを東奔西走され、さらには再発以来三十年の長きにわたって副会長を務め会に貢献されましたことに対し今回の米をお受けになることになりました。

荒川あや先生は、昭和四十年吉岡弥生賞創設に当たり、多額の基金を会にご寄贈下さいました。以来、その基金によって毎年医学の進歩、地域医療、あるいは社会福祉に貢献された方々にこの賞を贈り、吉岡弥生先生のご偉業を永遠に伝える事業を行なっている次第です。いささか遅きに失しておりますが、荻野吟子賞設定を機に、改めて感謝しお贈りするものであります。

さて、先般女医の実態調査アンケートに同封しました日本女医学会の「しおり」をご覧下さったことと思っております。現在全国に二万人余の女医がおります。しかるに本会会員はわずか三千人足らずです。かねてからぜひ会員を増やしたいと考えておりましたので、まず日本女医学会を知って貰う簡単な資料として、「しおり」を作成しました。改めて会の歴史と活動をご理解いただくとともに、入会のお進めにご協力いただきたさうございます。

入会申し込み書も受付に用意してございますので何枚でもお持ち帰り下さいませ。次に、昨年の総会で定款に関するご発言がありましたので、新執行部ではさっそく定款および施行規則の

見なおしをはじめました。今日までさまざまな意見がでて討議して参りましたが、まだ十分煮つまってきておりません。また、定款に関しては法的な承認手続が必要であり、少しづつ部分的改正という手段はできません。しかし定款および施行規則の見なおしは重要なことですから、今後も引きつづき検討して参る考えてあります。

去る四月、国際女医会、西太平洋地域会議が台湾の台北市で開かれ、日本から十六名が参加、大原一枝先生と大森安恵先生のお二方が論文発表をなさいました。その際、学術講演の他に、今後地域会議をどのように実施してゆくかについて事務的な合が持たれました。日本で開催するような事態をそろそろ考えておかなければいけないことをお耳に入れておきたいと思っております(詳細別途参照)。

昨年六月、国際女医会を通してWHOに、特定の専門分野に助言者としての役割を果たせる女医についての推薦を依頼して参りました。学術的に優れ、外国語の能力を持った女医を全国から約二十五名(非会員を含む)推薦致しました。国際女医会本部から再度、会としても学術的ネットワークを作りたいと先日申し入れて来ました。国際的にもどんどん活躍する女医が増えることを期待して止みません。

この際、荻野吟子賞選考規定について一言つけ加えさせて頂きます。全文はいずれ会誌に掲載しますが、

重要な資格については、独自の活躍をもって女医の地位向上に著しい貢献をした女医に与えるものとし、原則として日本女医会会員とする。ただし、特別の場合には非会員をも考慮する」としたことです。吉岡弥生賞、荻野吟子賞のいずれに対しても、推薦をよろしくお願い申し上げます。最後に、ご案内の通り六十一年度は新たな事業が計画されております。社団法人日本女医会の発展に力をおかけして参ります。また、地方から婦人問題関係で講演に招かれたりした折々に、支部でお集まりを企画して下さい。あるいは何人かの方々とお話しする機会を作って頂き、大変ありがたく嬉しいことでした。ご迷惑をかけてはと思ひご連絡も控えております。わがわが前の晩からゆっくりお出で下さい。また、とあたたいお誘いをいただき感激したことはいく度かございました。日本女医会の現状をお話するだけなく、皆様の会に対するご希望やお考えを聞かせていただき、得ること多うございました。会員の皆

追記

会長就任以来、神奈川県支部をはじめとしていくつかの支部のお集まりにお招きを頂きました。また、地方から婦人問題関係で講演に招かれたりした折々に、支部でお集まりを企画して下さい。あるいは何人かの方々とお話しする機会を作って頂き、大変ありがたく嬉しいことでした。ご迷惑をかけてはと思ひご連絡も控えております。わがわが前の晩からゆっくりお出で下さい。また、とあたたいお誘いをいただき感激したことはいく度かございました。日本女医会の現状をお話するだけなく、皆様の会に対するご希望やお考えを聞かせていただき、得ること多うございました。会員の皆

日本女医会定時総会議事録

- 日時 昭和61年5月25日(日)
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿二二二)
午後一時九分開会
司会 野沢 良美
社団法人日本女医会総会開会に際し
会員数 二、七五一名
出席数 一九〇名
記名委任数 六八七名
白紙委任数 三九三名
以上のとおり日本女医会定款第二十七条の定数に達し総会が、成立する旨の報告あり、開会を宣す。
会長挨拶 山崎 倫子
物故者への黙祷 昭和六十年会費物故者に黙祷。
報告
一、会務報告および事業報告
配布済みの資料にもとづいて報告あり
二、昭和六十年年度特別会計報告
吉岡弥生賞基金会計 福永ひろ子
国際女医会記念事業基金会計
年会会計
ルーベンタン会計
以上について配布済みの資料にもとづき報告あり
三、国際連絡書記報告 藤井 雋子
見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

第四号議案

- 次々期総会開催について
次期開催 大阪 山崎 倫子
次々期開催 東京 福永ひろ子
原案どおり可決
第五号議案
名譽会長推薦について
三神美和前会長を名譽会長に決定
山崎 倫子
表彰
一、学術研究助成金授与者(五名)
稲垣千代子、藪 由紀子、武内ゆみ子、武市早苗、斉藤加代子

二、吉岡弥生賞受賞者(一名)

- 三神美和
荻野吟子賞受賞者(二名)
荒川あや、小俣喜久子
閉会の辞
午後三時五分閉会
議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。
昭和六十一年五月二十五日
議長 長 守安 素女
議事録署名人 守屋 孝子
議事録署名人 近江 久子
議事録署名人 中村 西子

特別講演

現代医学の反省

梁瀬 義亮

一、日本人の健康の現状

医学はすばらしい発達を遂げました。立派な薬や施設が完備し昨年の医療費は実に十四兆円を越えています。にもかかわらず病人の数は一向に減らぬのみか増加の一途を辿っているのです(表1)。

結核や一部の細菌性疾患は少なくなりましたが、他面癌、白血病、リウマチ、慢性の肝臓や腎臓の疾患、糖尿病等々いわゆる慢性退行性疾患

二、吉岡弥生賞受賞者(一名)

が著しく増加し、また膠原病等原因不明の難病奇病も多く現われております。ことに癌の多発は恐るべきです。その死亡者は昭和五十六年国民死亡原因のトップになり、年々増加の一途を辿っています(表2)。

その他体力の低下、身障児、奇形児、精薄児の多発、骨折や齲歯の多発等々医学の発達とは裏腹なこの現実の前に国民は就々としています。平均寿命の延長は誠によろこばしいことではあります。現在の平均寿命の延長は真の意味の寿命の延長ではなくて、抗生物質や設備の向上による老人や乳幼児の死亡減少によるものであります。今や国民死亡の最大原因は公害と深い関係にある慢性退行性疾患に移行して来ており、今の長寿はその過渡期の一現象とし

表1 厚生省発表国民有病率(国民1000人当りの病人の数)

Table with 5 columns: Year (昭和30, 53, 56, 59), Disease Rate (有病率). Values: 37.9, 110, 130.5, 137.3.

(59年の60歳以上の人の有病率は471.4)

表2 厚生省発表 癌による死亡者数

Table with 5 columns: Year (昭和54, 55, 56, 57, 58), Number of Deaths (癌による死亡者数). Values: 155,000, 162,000, 165,600, 174,480, 182,000.

か思われません。すなわち八十歳、九十歳の老人とともに四十歳、五十歳台の人の死亡が大変多く、これが大問題になっております。ここで注意すべきは八十歳、九十歳台で死ぬ老人も四十歳、五十歳台で死ぬ若年層の人もすべて公営年齢三十三歳で死亡しているという事実であります。私の観察によりますと、農薬や食品添加物等の合成化学薬品による慢性中毒の場合、その害は十、三十年くらいかかって慢性退行性疾患として現われ、あと一、二十年で死亡する例が多いのです。



講演中の梁瀬義亮先生

二、上述の事実を踏まえて、現代医学を反省する

へん高く憂慮にたえません。屍体を病理学的(細菌学、医化学をふくめて)に追求することから進歩した現代医学は病気を病気という時点で捉え、この時点で病気を克服しようとして来ました。そして最終的に成功を見ていません。しかし病気が人間が持っている病気に対する抵抗力あるいは自然治癒力(すなわち生命力)と密接な関係があり、従って生命力の発現の源泉である生活とは実に密接な関係があるのです。病気を病気という時点だけで捉えるときは「くすり」とか「手術」というアイデアだけが浮かびますが、病気を生活との連関において捉えるときは単に「くすり」や「手術」による治療というアイデアだけではなくて生活の匡正による生命力の強化によって病気を克服しようという今一つのアイデアが浮かびます。そしてこれがもっとも本能的な病気の克服法となるのであります。あたかも火事の抜本的解決は消防車の強化によってではなく火の用心の徹底

〈梁瀬義亮氏の紹介〉

大正九年奈良五條市の宝満寺に生まれる。昭和十八年京都大学医学部卒業。二十一年フリーピンより復員し、兵庫県立尼崎病院勤務を経て、二十七年五條市に帰郷開業。帰郷直後より、農薬の恐ろしさに気づき、いのちを全うする農のあり方を研究する。三十四年「農薬の害」発表、四十五年「慈光会」結成、五十年「吉川英治文化賞」受賞。日本の有機農法の草分けの一人として、その活動は有吉和子著「複合汚染」にも紹介されている。また、昭和三十七年には「五條仏教会」を結成し、毎月仏道の講義をしている。著書に「有機農薬革命」、「生命の医と生命の農を求めて」などがある。六十二年四月に、近代人の仏道入門書として、「仏陀よ」を完成された。(東京都支部連合会学術部・荒木律子)

よってのみ達成できるように。しかし思えば自然治癒力(生命力)は医療の基礎であって、これがあるがゆえに手術も可能であり抗生物質も効果があるのです。しかし私たちはしばしば「生命力を持った生命体としての人間」という事実を忘れて、単なる機械であるロボットに過度に患者の診療をしがちなのであります。

三、病気と生活との関係について

昭和二十三年から四年間かかって私は一万人の患者の生活を詳しく調

査しました。また奈良県南部の深い山岳地帯の僻村を廻って交通の便がよくなくて町の生活を導入した地区と交通が不便で相変わらず昔のままの生活をしている地区との病気発現状況の差をしらべ、また紡績工場や土工の飯場に入って調査をしました。その他結核家系、リウマチ家系といわれる家庭の生活をもしらべて廻りましたが、昭和二十七年秋結核を得ましたが、それが奇しくも当時発表された東北大学の衛生学教授近藤正二先生の長寿村と短命村の食生活に関する永年のご調査による結論とまったく同じであることを知りました。

爾来三十年あまり常に患者の生活(とくに食生活)を調べつづけて来て、この結論に誤りのないことを確信しています。生活の匡正ということも病気の予防のみならず、その治療にもきわめて大切であります。たとえば再発をくり返す扁桃腺炎患者や永年の難治の溶連菌症やB型ウイルス肝炎が生活の匡正によって二、三カ月で完治した等の例も多く、極端な例では絶望的な重症膠原病患者や白血病患者が食生活の匡正と遠藤仁郎先生の青汁療法で治癒した例もあります。くすりによる治療のみ専念して、患者の生活の匡正を忘れないように注意したいと存じます。

(イ)食生活について申し上げます。水成岩性のアルカリ土壌でミネラルの豊富な土地に住む牧畜民族である欧米人とミネラルの少ない火成

岩性の酸性土壌に住む農耕民族である日本人とは自らの食生活の注意点を異にしなければならぬのは当然であります。フォイトやルプナーの栄養学に基づいたカロリーと動物性蛋白質の栄養概念が日本に定着していますが、日本人にとって絶対ゆるがせにできないのは野菜(とくに緑色野菜やイモや豆)と海藻の十分な摂取による天然のミネラルとビタミンの十分な補給であります。その意味で遠藤仁郎博士の青汁療法は予防にも治療にも偉効を奏します。同じ意味で、お米をくろくすることや麦飯も大切であり、また白砂糖を十分制限する必要があります。最近の子供の白砂糖摂取量は恐るべきです。また肉食をせず魚を主にした古来の食習慣も日本人に適していることをたしかめました。

(ロ)食事時間について……夕食が遅くなる人は慢性胃炎を起こすことが多く、難治性胃炎の原因になります。(ハ)酒、煙草の害も大いに注意を要します。最近酒類の添加物が多いため、その上他の公害物質との相乗作用が現われるのでその害は以前よりはるかに甚だしいのであります。

(ニ)肉體運動とくに歩行運動の大切さも忘れてはならぬと存じます。(ホ)精神生活も直接・間接に健康や病気の進行や治療に大きな影響があります。その意味で正しい世界観や人生観の問題、したがって哲学、宗教、芸術に医師は心すべしと存じます。

このように生活の匡正による生命力の強化という発想の新しい臨床医学が加わることを願うものです。同時に医師が国手という名にふさわしく、生命と健康という立場から医学や工学に關与し、公害に悩むこの現在社会の救済に乗り出すことを祈って止みません。

各賞と研究助成授与者

今回の総会で、三神美和先生に吉岡弥生賞が、小俣喜久子、荒川あやの両先生に荻野吟子賞が、また多数の応募の中から次の五氏が学術研究助成授与者に選ばれた。

吉岡弥生賞

▽三神美和先生 昭和四十二年より十八年間にわたり会長の要職を果し、その間本会の社団法人の認可、大阪万博会期中の救急医療奉仕、昭和五十一年の国際女医学会会議の東京招致、国際交流基金助成、研究助成制度、会館建設、また荻野吟子賞の設定など、卓越した能力と優れた指導力により日本女医学会を今日あらためた功績を称える。

荻野吟子賞

▽小俣喜久子先生 敗戦の焦土の中で吉岡弥生先生の女医学会再建のよびかけに応じ、三同窓会の中の鶴風会代表の一人として粉骨砕身本会再



荻野吟子賞・小俣喜久子



吉岡弥生賞・三神美和

建に努力、昭和三十年再建第一回総会を開催、以来三十年の長きにわたって副会長として本会に貢献された功績を称える。

(ニ)また逆に食生活の精神状態におよぼす影響はきわめて大で、最近の子供の精神状態の異常の大きな原因の一つとして間違つた食生活があると思ひます。

四、医と農について

上來医療と食生活は切り離せない関係にあることを申しましたが、その食生活の中心になるのは農作物であります。ところがその農作物は栽培方法すなわち農法によってその内容が違つてくるのです。したがって医療と農法とは密接な関係にあるわけですから、化学肥料で作られた農作物はさまざまな成分において欠乏があり、栄養価が低く、また異常な成分が現われて味や香りが悪く、これを食べていると人間でも家畜でも病気になるり易いのです。どうしても正しい堆肥による有機農法でなければなりません。また農薬の害の恐ろしさはまだまだ認識不足です。とくに農薬の慢性中毒においてしかりです。薬学の教育も受けていない農民が恐ろしい毒物を使って農作物をつくるのですが、五千種近い農薬が使用許可されその中二百二十種位がよく使われます。しかもそれらは作物体内へ滲透してしまつて洗つても落ちないのです。したがって現在の農作物、とくに果物類や高級野菜や、季節外れの野菜等は実に恐るべきものです。これらは徐々に慢性中毒を起こし自律神経系、内分泌系、脳および諸臓

器を侵し、十〜二十年で慢性退行性疾患や自殺や、異常な犯罪を起こします。化学肥料と農薬を二大支柱とした近代農法は、土を殺し、益虫を減らし、人を減らすの農法であります。私は過去三十年間無農薬、無化学肥料の農法を研究して来ました。完全無農薬有機農法は十分可能で二十五年前から立派に米、野菜、果物ができていますし、農家の経営もこれで十分できるのです。承りますれば皇室の御料地では完全無農薬有機農法で農作物が栽培されている由であります。近代農法の害はわかつていながら国民によく知らされず、相変わらず推進されています。無農薬有機農法は民間レベルでのみ広がらつてある現状であります。

五、その他の毒物の氾濫

三十年以上前から農薬や化学肥料とともに数多くの合成化学薬品が食品添加物(現在三百四十七種が認可されている)や洗剤、医薬品や工場廃棄物等々の形で大規模な人体汚染を起こしてあります。これは人類始まって以來未だなかったことです。しかも現代医学の合成化学薬品による慢性中毒に関する医学的知見はきわめてとほしいものであり、ことに相乗作用、相加作用の起る場合のことはほとんど分かつていません。社会のこの大変化に対する医学の対応は実に遅れています。昭和三十年以來合成化学薬品による人体汚染が全国

規模で起こつている事実およびそれによつてさまざまな退行性疾患が起こつている事実を私は臨牀的に観察してまいりました。日本民族の将来を思い、誠に憂慮に耐えませんが、「第二のノアの洪水」であります。

六、おわりに

人類の繁栄をもたらす「すばらしい生の文明」の出現の期待とは裏腹に、今やこの文明は公害と核の恐怖の中に人類の滅亡を予想させる恐ろしい「死の文明」であることを露呈しました。今私たちが近代文明の推進者である近代思想や近代科学への反省を迫られてあります。近代文明は「人間対自然」、「人間対他の動植物」という二元論的な「断絶」の発想および「人間中心」の発想の上に成立しています。そして「殺す」「奪つ」という理念と方法で進んで来ました。その近代文明の反生態学的なあり方を振り返るべき時が来ています。「大自然に生かされた生命体としての人間」という事実、また「人間は、同じ大自然に生かされている数限りない他の生命とともに織りなす生態系の一員としてのみ生存が可能である」という生態学的事実を踏まえて「殺す」ではなくて「共存」という、また「奪つ」ではなくて「共栄」という発想の上に新しい「生の文明」への転換の時が来ていると信じます。害虫を殺し、雑草を枯らさなければ収穫は不可能であるという発想の大自然を敵視する近代農法に対し、

報告とお礼

五月二十五日の総会の際にインドシナ難民を助ける会への募金をお願いしましたところ、多数のご協力により、総額は、六八、二五一円に達しましたことを厚くお礼申し上げます。

荻野吟子賞を受賞して

荒川 あや

名古屋の森川みどり様から「荻野吟子賞に推薦したい」旨をうかがい、心からなる感謝でございました。すでに八十六歳の齢を重ね、賞さるる恥ずかしさに恐縮至極でしたがご温情にあまえました。私は母校創立の恩師弥生先生が親にもまさる一生涯の師で、大東亜戦争の挺身隊長当時のお助けは、到底忘れる事はできません。昭和五十五年から一高時代の一即学友岸信介会長の協和協会に入会しましてから、とみに各方面の殿方におちかしく願ひ、たまたま元海軍中將保科善四郎様、事務局長永峯様に最後の仕事として第二ビルの画廊あとの提供を申してたご縁で防衛庁展示ルームの開設となりました。終戦の御聖断の御前会議の絵を中心とし、陸空海の自衛隊、航空機、戦車、艦艇の写真、パネルを展示、自衛隊の活動状況をビデオで放映見学して頂き国防の重要さを多くの方に見て頂き、国民の一人一人が責任をとり、とりわけ陛下六十年御在位の意義ある御代を寿ぎ、あわせてささやかながら感謝申したいと思ひました。五月三十日に開館いたし、ひきつづいて第一ビルの七階自室で防衛庁、国防協会、日本婦人連合会、中央警察署母の会、日本を守る国民会議の若人がたそれそれ卓について、

手拍子とり、歌声高く賑やかな懇親会で時を忘れ喜び合いました。吟子賞の五万円をこの中に使わせて頂きました。御礼申し上げます。

日頃国民の自分の私共も異種同格の意で謙虚ながら勇気を持って祖国愛高揚に、陛下の映画で小学生から高校生まで始めて知る天皇陛下に頭を下げ愛国の情の燃えた事は嬉しく胸一杯の感涙です。

七月六日の衆参同時選挙で野党党首の怒りたつ顔、ほんに寛容温情の絶無の悲しき泣きたい程です。どうぞ私心私事のみで終止せず、至誠を持った次元の高い党首であられよと願わずには、いられません。

スパイ防止法も占領憲法も四十年間そのままは国家威信にかかわると思ひます。地球を自滅自潰の憂き目にあわさぬよう指導者をお願いいたします。

最後の仕事と心得ます展示ルーム、言いだした責任上、物的な心配をかけませんよう心づかい致す所存でございます。

至誠を持って貰かれた恩師のみ教えを忘れませぬようおぼつかながら実現実行して、一生幸だった多くの方々がたの御配慮に心からなる感謝を捧げたいと存じます。

(五月三日)

〔昭和61年〕
学術研究助成授与者



齊藤加代子 武市早苗 武内ゆみ子 藪由起子 稲垣千代子

荻野吟子賞を受賞して

第三十一回日本女医会総会において荻野吟子賞を受賞いたしましたことは、ひとえに、日本女医会の先輩の先生方、そして諸先生方のご厚情によるものと深く感謝申し上げますとともに、私にとりましては誠に光栄に存じます。

小俣喜久子

これらの先生方は、男医に優るとも劣らない立派な研究業績を発表され、同じ女医である私どもにとつて誠に意を強くするものでございます。

総会を了、えて

梅雨入りもまちな今日この頃ですが、諸先生には、お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。今度の第三十一回日本女医会総会には、全国津々浦々より、また地元

日本女医会東京都支部連合会
会長 今野 信子

まして、前会長三神先生のご提唱により荻野吟子賞を設定されることになりました。このたび、私は第二回目の栄誉あるこの荻野吟子賞を受賞することになりました。ただただ恐縮の極みでございます。

して、企画・運営に誠心誠意努力されて得たものであります。この誌上をかりて、心より厚くお礼申し上げます。また今総会を

ではないかとの意見もありましたが、過去の総会においておうけしたご温情に対して、今度は東京でやらなければと言つやむにやまれぬ心意気が協調の心となり、総会を成功させよう、たのしく会員相互の懇親に役立つ総会へと役員皆様の気持が一致し、まっしぐらに前進したわけでありました。

さて総会準備にとりかかったものの今年の五月は東京サミット等ややたおくれの感なきにしもあらずでしたが、ご参加の皆様になんとか満足して頂きたい気持ちがいつぱいで、この誠意がすべてを可能にし、おのずから道がひらけて来ました。

総会に参加して

思いつくままにベンを走らせてしまいました。総会を了え、開催に至る過程の一端をご紹介致しました。終りに終始会長山崎先生はじめ執行部諸先生のご高配を頂き、また事務局のご助力に対して心よりお礼申

愛知支部 星野 和子

き締めました。定刻入場、女医会員のために中央の特別の座席を選んで頂き、東京都支部連合会の皆様に感謝して着席しました。舞台ではなじみの俳優の力演と三階席よりの大きな掛声に一段と力が入りました。老

第三十一回日本女医会総会が新会長と新役員、東京都連合会での初めての開催で大いに期待して参加させて頂きました。総会の前夜祭観光を

観劇と定めました。歌舞伎座の団菊祭は五月の恒例となっているのですが、この良い機会に合致しての



歌舞伎座はご存じの桃山様式といわれる独特の建築法で、日本伝統の風格を感じ、その偉風にまず身を引く過ごしました。

観光コースにお供して

Aコース〈歌舞伎観劇〉

て梁瀬義亮先生の医師、僧侶の肩書を持った、自然農法研究者として知られている先生で私どもの実生活に大変有意義な考案として考えさせられる講演でした。

東京都支部連合会広報部

岡村 正子

二村各先生方のご尽力により、団菊祭のすばらしい芝居見物となりました。困難な切符の手配も諸先生方の顔、顔、顔により六十枚と大量に入

午後四時ごろには全国各地より鑠々たる先輩、潑刺たる後輩が三三五五集い来たり、久しぶりの再会に元

が、東京女子医大を除く私立二十八校では僅か一・二四%に過ぎず、この率は国立の〇・六五%、公立の一・八九%と比べて大差はない。助教、講師について見てもほぼ同じ傾向がみられる。

第二表は臨床分野のデータを示す。女性教授数は全八十校の教授総数二千二百二十名中僅か十六名(〇・七九%)に過ぎないが、東京女子医大の四十九名中七名(一四・二八%)を除くと、千九百七十三名中九名(〇・四六%)とさらに低くなる。

第三表は基礎と臨床をあわせた全職者中に占める女性教授ならびに助教、講師の数および率を、全八十校と、東京女子医大、および東京女子医大を除いた七十九校について算定したものである。女性教授の率は八十校平均で一・一一%、東京女子医大では二三・〇八%、これを除く七十九校の平均は僅か〇・六六%である。助教、講師についても同じ傾向が見られる。

第四表は教授職のみについて、基礎、臨床ならびに基礎および臨床合計数を、国立、公立、私立別に検討した表で、一般に臨床分野における女性教授数は〇・七九%で基礎分野における一・六四%に比べて半分以下で低く、とくに国立校では〇・三一%に過ぎない。私立校においても基礎分野二・八〇%に比し臨床では一・四一%と約半分の数値を示す。基礎と臨床を合わせた女性教授の率は国立〇・四四%、公立〇・七九%

私立一・九一%と順に大きくなり、全八十校の平均は一・一一%を示す。以上のごとく女性教授者の数は残念ながら甚だ少なく、日本における全医師数のおよそ一〇%を女医が占めていることを考えあわせると、あまりにも少ないといわざるを得ない。西太平洋地域における各国の実情は知るべくもないが、米国においては日本と同様の傾向が見られるらしく、女医は教職で歓迎されず、重要なポストに登用されるリストでは最後位に、解任される時は最初の順位におかれるという報告がみられる。男女雇用平等法が施行されたとはいえ、学問の世界はきびしく、われわれとしては今回の調査結果を厳粛に受けとめ、二十一世紀を荷う若い世代の女医が実力を発揮して伸びて行き易い環境づくりに努力したいものである。この意味で日本女医学会が行なっている研究助成事業は非常に意義深いものと考ええる。

終わりに参考までに、一九八五年における女性教授三十六名を活躍分野別にみると、基礎および社会医学系では解剖六名、生理および薬理各三名、生化学、微生物、衛生、法医学各二名、計二十名、臨床系では眼科三、内科、皮膚科、精神科各二、小児科、産婦人科、泌尿器科、放射線科、輸血、麻酔、社会福祉各一名、計十六名であるが、これらの方々のご活躍を心からお祈りする。



去る四月十一、十二日、台北において行なわれたこの会議に出席するため、一行十五名と、別行動で台北に入した小出つる子、佐野アヤ子、稲生斐先生方が参加しました。参加国は、オーストラリア、日本、韓国、ニュージーランド、台湾、フィリピン、米国から、モラニー博士が加わり六十名、地元六十二名計百二十二名、私どもは十日午前八時五十分、羽田を發つて、一時間の時差で、中正国際空港に無事到着し、バスで市内をひとまわり見物しました。台北市内は見違えるような発展を

さの念でした。その矢先、昨年末の理事会で、山崎会長から日本からの出題者が皆無と聞き、何とかならぬかと考えさせられました。年齢的な体力の衰えのほか、能力の面でも私の出る幕ではないと躊躇することしきりでしたが、こんな調査なら私にもできるのではないかと考えたのが表題のようなことでした。第一は女医の医育機関における教職占位率、第二は学会における女医の研究発表状況、第三は学会機関誌に掲載された論文のうち女医の手になるもの数と率を、国際婦人年の最終年である一九八五年という年をえらんで調査することでした。昭和五十九年十一月に催された日本女医学会の女医公許百年記念式典の当日、一九八三年現在のわが国八十医育機関における女医の教職占位率と率について報告させて頂きましたので、それならって今回は一九八五年における調査を行ない、台北で旧友のアメリカのモラニー先生について約三分の報告を行ないました。

医育機関名簿から女医を拾い出し、基礎と臨床、また国立と公立、私立に分けて、教授、助教、講師別に

去る四月十一、十二日、台北において行なわれたこの会議に出席するため、一行十五名と、別行動で台北に入した小出つる子、佐野アヤ子、稲生斐先生方が参加しました。参加国は、オーストラリア、日本、韓国、ニュージーランド、台湾、フィリピン、米国から、モラニー博士が加わり六十名、地元六十二名計百二十二名、私どもは十日午前八時五十分、羽田を發つて、一時間の時差で、中正国際空港に無事到着し、バスで市内をひとまわり見物しました。台北市内は見違えるような発展を

検査したのが次の各表です。第一表は基礎分野の教授、助教、講師の数と率を(分母の分母は全職者数、分子は女医の数をあらわす)国立四十三校、公立八校、私立二十九校に分けて掲げ、さらに女子のみを教育対象とする東京女子医大における数値を挙げて、これを除いた私立二十八校の数値と対比させ、つづいて全八十校の数値と、東京女子医大を除いた七十九校の数値とを比べました。

東京女子医大においては教授十六名中八名すなわち五〇%が女性であ

NUMBER & PERCENTAGE OF WOMEN FACULTY MEMBERS AMONG ALL THE FACULTIES OF 80 MEDICAL SCHOOLS IN JAPAN

BASIC 1985.

OWNERSHIP	PROFESSOR	ASSOCIATE PROFESSOR	INSTRUCTOR	TOTAL
43 NATIONAL	4/620 0.65%	10/467 2.14%	5/274 1.82%	19/1361 1.40%
8 PUBLIC	2/106 1.89%	2/79 2.53%	0/76 0	4/261 1.53%
29 PRIVATE	14/499 2.80%	20/317 6.31%	13/380 3.42%	47/1196 3.93%
TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE (T.W.M.C.)	8/16 50.00%	4/8 50.00%	3/10 30.00%	15/34 44.12%
28 PRIVATE (exclude T.W.M.C.)	6/483 1.24%	16/309 5.18%	10/370 2.70%	32/1162 2.75%
80 MED. SCHOOLS	20/1225 1.64%	32/863 3.70%	18/730 2.46%	70/2818 2.48%
79 MED. SCHOOLS (exclude T.W.M.C.)	12/1209 0.99%	28/855 3.27%	15/720 2.08%	55/2784 1.98%

NUMBER & PERCENTAGE OF WOMEN FACULTY MEMBERS AMONG ALL THE FACULTIES OF 80 MEDICAL SCHOOLS IN JAPAN

CLINICAL 1985.

OWNERSHIP	PROFESSOR	ASSOCIATE PROFESSOR	INSTRUCTOR	TOTAL
43 NATIONAL	3/956 0.31%	9/855 1.05%	46/1602 2.90%	58/3413 1.70%
8 PUBLIC	0/148 0	5/151 3.31%	5/234 2.14%	10/533 1.88%
29 PRIVATE	13/918 1.41%	26/786 3.31%	68/1666 4.08%	107/3370 3.18%
TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE (T.W.M.C.)	7/49 14.28%	17/28 60.71%	15/58 25.86%	39/135 28.89%
28 PRIVATE (exclude T.W.M.C.)	6/869 0.69%	9/758 1.19%	53/1608 3.30%	68/3235 2.10%
80 MED. SCHOOLS	16/2022 0.79%	40/1792 2.23%	119/3502 3.39%	175/7316 2.39%
79 MED. SCHOOLS (exclude T.W.M.C.)	9/1973 0.46%	23/1764 1.30%	104/3444 3.01%	136/7181 1.89%

NUMBER & PERCENTAGE OF WOMEN FACULTY MEMBERS AMONG ALL THE FACULTIES OF 80 MEDICAL SCHOOLS IN JAPAN

BASIC + CLINICAL 1985.

SCHOOL	PROFESSOR	ASSOCIATE PROFESSOR	INSTRUCTOR	TOTAL
80 MED. SCHOOLS	36/3247 1.11%	72/2655 2.71%	137/4232 3.24%	245/10134 2.42%
TOKYO W.M.C.	15/65 23.08%	21/36 58.33%	18/68 26.47%	54/169 31.95%
79 MED. SCHOOLS	21/3182 0.66%	51/2619 1.95%	119/4164 2.85%	191/9965 1.92%

THE NUMBER AND PERCENTAGE OF WOMEN PROFESSORS IN BASIC AND CLINICAL MEDICINE IN NATIONAL, PUBLIC AND PRIVATE SCHOOLS IN JAPAN

1985.

SCHOOL FIELD	NATIONAL	PUBLIC	PRIVATE	TOTAL
BASIC	4/620 0.65%	2/106 1.89%	14/499 2.80%	20/1225 1.64%
CLINICAL	3/956 0.31%	0/148 0.00%	13/918 1.41%	16/2022 0.79%
BASIC & CLINICAL	7/1576 0.44%	2/254 0.79%	27/1417 1.91%	36/3247 1.11%

「国際会議に提出された論文二題のうち、大森安恵先生の「糖尿病と妊娠」については、本誌前号に発表済である」

日本における女医の学術分野における活動状況についての研究

(その一) 医育機関における女医の教職占位率

大阪7支部 大原 一枝

国際女医会へは絶えて久しくごぶさたをしていて、今回の台北市での西太平洋地域会議に出席する——ましてや出題する——などは夢にも考えていなかったことでした。その私の心を動かしたのは、昨秋京王ラザで催された国際ゾントの東京大会での近隣発展途上国の女性たちのめざましい活躍に比べて、世界からつけては注目されているわが日本女性の活躍ぶりが今一つという歯痒ゆ

さの念でした。その矢先、昨年末の理事会で、山崎会長から日本からの出題者が皆無と聞き、何とかならぬかと考えさせられました。年齢的な体力の衰えのほか、能力の面でも私の出る幕ではないと躊躇することしきりでしたが、こんな調査なら私にもできるのではないかと考えたのが表題のようなことでした。第一は女医の医育機関における教職占位率、第二は学会における女医の研究発表状況、第三は学会機関誌に掲載された論文のうち女医の手になるもの数と率を、国際婦人年の最終年であ

る一九八五年という年をえらんで調査することでした。昭和五十九年十一月に催された日本女医学会の女医公許百年記念式典の当日、一九八三年現在のわが国八十医育機関における女医の教職占位率と率について報告させて頂きましたので、それならって今回は一九八五年における調査を行ない、台北で旧友のアメリカのモラニー先生について約三分の報告を行ないました。

医育機関名簿から女医を拾い出し、基礎と臨床、また国立と公立、私立に分けて、教授、助教、講師別に

検査したのが次の各表です。第一表は基礎分野の教授、助教、講師の数と率を(分母の分母は全職者数、分子は女医の数をあらわす)国立四十三校、公立八校、私立二十九校に分けて掲げ、さらに女子のみを教育対象とする東京女子医大における数値を挙げて、これを除いた私立二十八校の数値と対比させ、つづいて全八十校の数値と、東京女子医大を除いた七十九校の数値とを比べました。

東京女子医大においては教授十六名中八名すなわち五〇%が女性であ

国際女医会西太平洋地域会議に出席して

渋谷支部 添田 百枝

去る四月十一、十二日、台北において行なわれたこの会議に出席するため、一行十五名と、別行動で台北に入した小出つる子、佐野アヤ子、稲生斐先生方が参加しました。参加国は、オーストラリア、日本、韓国、ニュージーランド、台湾、フィリピン、米国から、モラニー博士が加わり六十名、地元六十二名計百二十二名、私どもは十日午前八時五十分、羽田を發つて、一時間の時差で、中正国際空港に無事到着し、バスで市内をひとまわり見物しました。台北市内は見違えるような発展を

しくて過ごしました。明けて十一日は午前十時から開会し、大原一枝、大森安恵先生の二題の発表をおききました。あとも、三神先生、唐沢先生や他の先生方も一日中会場にとどまり、山崎先生の奮闘を応援しました。夜は全員台北特のバーベキューの会場に行き、帰って来て、円山大飯店の小ホールで子供たちの演ずるアトラクションで楽しみました。

十二日は屋外研修に会議出席者全員で名所を見学しました。台北大病院も見学しました。午後は故宮博物院にも行きました。夜は八時からバンケットがあり、各国のお国自慢の歌を競い合いました。会議はあつという間に終了しました。翌朝山崎石原先生は帰路に着き、小出先生方は同窓会の方々と行動を共にし、残された一行はバスにて日月潭へ向かいました。花ぐもりの湖水の色は期待した美しさでなく、過ぐる年の十一月にみたあの美しいエメラルドグリーンの湖を見ることができず残念でした。

十四日はまたバスで台南高雄を訪れました。この日はオランダ植民統治から台湾を解放(一六六一)した鄭成功を祀る廟、延平郡王祠(開山王朝)を訪れ、日本人の母田川氏や子孫、妃をねんごろに祀つてありました。

この古い歴史の街、高雄に一泊し、空路にて、北京に立寄り無事帰国しました。(一九八六・六・十)

各部だより

渉外部だより

国内担当 野本 照子

国内活動として、昭和六十一年三月二十七日、主婦会館において、国連婦人十年日本大会決算報告は、財政的にも成功し、残高は今後の大会報告集・編集費などに当てる。今後の組織運営について、二〇〇〇年に向けて運動を推進する体制について討議した。

運営については参加団体四十八から五十団体となった。売春防止法の施行状況と改正点について、プロジェクトチームを作ることにした。今後検討すべき課題として、税制問題、老人保健法の改正等がある。

国外担当 佐野アヤ子

昭和六十一年四月十日から十二日まで、台湾において第一回の国際女医学会太平洋地域会議が行なわれた。日本から十六名出席し、全出席者約百二十名の盛大な会であった。大森安恵先生の「糖尿病と妊娠」と

この会議においてアメリカの前国際女医学会長Drモラニー、および、オーストラリアの前国際女医学会長Dr



Dr.モラニー前国際女医学会長を囲んで

イド・グリーンとの会談に際し、国際女医学会の将来のあり方について検討し、相互の交流を深めさらに国際女医学会の発展につとめるべきとの強い希望で一致しました。

Drモラニーはこの会議終了後、フイリピン、バンコック、香港を経て来日し、私の家で一週間滞在されました。四月二十三日には大阪の大原理事の招待で京都・大阪の見物をして、二十五日には日本女医会理事有志がホテル・オークラで歓迎会を催し、翌二十六日は再び有志がDrモラニーを囲んで、銀座「青山」において日本料理を楽しまました。また二十七日は待望の宝塚を有志十三人とともに観劇し、その後は二宮先生のご招待を頂く等、成田までの送迎、浅草やデパートへの買物、食事作りと多忙な毎日でしたがDrモラニーは日本の皆様に深く感謝してお帰りにになりましたことをご報告致します。

荻野吟子賞選考規定

明治維新以来西洋文明の大幅な導入にもかかわらず、日本では旧来の男尊女卑の思想が根強く支配していた。

その時代に荻野吟子は医学を志し、幾多の苦難や妨害に耐えて明治十八年医術開業試験に合格、女性として初めて公やけに医師の資格を与えられた。

昭和五十九年公許女医誕生百年を記念し、社団法人日本女医会は荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝えるため「荻野吟子賞」を制定する。

第1条(資格) 荻野吟子賞は、独自の活躍をもって女医の地位向上に著しい貢献をした者に与えるものとし、原則として日本女医会会員とする。但し特別の場合には非会員をも考慮する。

受賞者は原則として年一名とし、日本女医会総会の席上で表彰する。

Drモラニーは昨年ペンシルバニア医科大学(もと女子系の医大)に医学生情操教育を深めるため、自費を投じてアート・コースのカリキュラムを作り、本年一月にモラニー・アート・ギャラリーを学内に設立されました。そこには長年の間に世界で集められた美術品や自作品が飾ら

支那だより

真の指導者に

海外医療奉仕の経験を通して

豊島支部 上崎 道子

「安全と水は唯で貰えるものと思われている」のが日本人的思考だと言われていますが、女性として最高の教養を誇る女医の世界でも他事ではないでしょう。当然私もまた、その一人にすぎない島国育ちで世間知らずの一人よがりの人間なのですが、外国へ行った回数だけは百回を越えて、世界中に外国人の友人をたくさんもっている点から、生意気とお叱りを受けるかも知れませんがペンを取りました。

私は現在四十六歳ですが、三十歳の時から海外へ医療奉仕をして参りました。二十代の頃から外国の方々

と深く交流する機会に恵まれて大変ショックを受けたのは、日本も日本人も世界中の人々から、嫌われ憎まれ、軽蔑されている事に気付いた事でした。それまで自分は戦後の教育を受けて来たためか愛国心なども持っていると思えなかつた

のでしたが、その事に気付いた時は涙が止まりませんでした。そして「ああ、私はやっぱり日本人であり、日本を愛していたのだ」と初めて感じたのです。日本が、世界の人々

から嫌われるようになった原因の大半は第二次世界大戦前と中の海外への侵出でしたが、その傷が癒りつつある現在でも、日本人の社交的ななさとか言語の下手さとかユーモアのなさなどから多くの誤解も生じているのです。

読まず・書かず

高知支部 小出つる子

開発途上国へ行くたびに、その貧困のきびしさに心を打たれます。古い医療機械はもとより古い衣服でもよい、たった一、二円のビタミン剤に群がって来る人々に日本の敗戦直後

の光景が浮かんで来ます。アメリカの助けを受けたとは言え、わずか四十年間で貧乏のどん底から華麗に変り咲いた日本が真の意味でアジアの指導者となりたいものです。

念がたつて次は知らせてね、という人も多くて、会報や、女医の実態調査の通知なども、読まれないままに、

ちり紙交換に直通といった運命のものが多いのではないかと、ちょっと悲しくなりました。

私が友達に出す便りや、クラス会案内などは必ず記念切手を貼って出します。読まなかつたという友達にはまずないようですが、切手別納の判のついた通信はほとんど通信販売だといって封もせずに捨てている人もあるので、記念切手の効果も有り難いものだと思っています。

また知人の名の便りはもちろん読まれるのですが、医者は薬屋の広告をはじめとして、マンション・通信販売・進学塾・政治新聞・etc...一週間整理しないと机上に、五十センチはたまります。もちろんそのうえに学術書・学会報・医師会報が加わりますので、机上はすぐ満員になってしまいます。だから読まない人が増えているのですが、テレ

ビ文化も一般の人から読むというところから遠ざかせる一つの原因でしょう。カルテ以外にはペンはないのという友達もありません。心を込めた贈り物をして、電話でお礼だけだと物たりなくります。四十歳代になると少し視力が衰え読むことがなんとなく面倒になるし、若い女医さんたちは家事・育児・仕事に全く忙しく、いろいろな通信に目をとることができなかつたりでしょう。

さて、この駄文が何人の方に読まれて、何人の方から反応の葉書がくるでしょうか？

理事会議事録

日時 昭和61年3月22日
場所 日本女医学会会館
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、野沢、平瀬、福永、藤井、丸山、三好、八木、石川、石津、稲生、鶴川、大原、川口、小出、小暮、南雲、野中、野本、橋川、藤田、山本、添田、西山、山口

一、昭和三十八年度事業計画案および予算案について
各部よりの要望予算額を考へながら別紙資料にもとづき検討する。
二、日本女医学会しおりについて
別紙どおり決定し印刷する。
三、その他
(1)警道顕彰会より当会会員名簿購入希望について
一万円で販売する。
(2)名誉会員荒川あや先生より会費八千円納入されたが返金する。
以上
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、野沢、三好

賞の礼状あり
(1)三神美和会員より吉岡弥生賞受賞の礼状あり
(2)故三谷泰子先生遺族より香典の礼状あり
連絡事項
一、総理府より「国連婦人の十年」西暦二〇〇〇年に向けて婦人の地位向上を図るためのポスター掲示の依頼あり
二、労働省より第三十八回婦人週間実施について
テーマ 女性の能力や役割についての固定的な考え方を直そうー男女雇用機会均等法の施行を契機にー
期間 昭和六十一年四月十日

十六日
三、昭和六十一年度国立婦人教育会館主催事業について別紙通知あり
会計報告 稲生理事
二月分 別紙どおり報告 承認
各部報告
(学術部) 藤井常任理事
講演研修会について
昭和六十一年十月十一日(土)、ホテル・センチュリーハイアットで開催。吉岡弥生賞受賞の講演は、平野京子先生の仮演題「皮膚疾患における免疫学的検査方ー蛍光抗体モノクローナル抗体などを用いてー」である。
(事業部) 白橋常任理事
七十六校の医科大学名簿より女医二〇、五七九名に「女医の実態および意識調査」のアンケート依頼をする。
(広報部) 八木常任理事
次回日本女医学会誌発行は、四月末である。
(渉外部) 佐野常任理事
3月27日 国連NGO国内委員会
3月31日 「婦人セミナー」の動向を「もとめて」の講演会
右記参加希望者は、申し込んでほしい。
モラニー先生歓迎会について
国際女医学会西太平洋地域会議後、Drモラニー来日の際下記のとおり歓迎会を行なう、出席希望者は渉外部まで申し出てほしい。
日時 昭和六十一年四月二十五日(金)午後六時

旅行日程のご案内
(コース)
①オリエント急行、イタリヤコース(日本交通公社扱) 15日間
旅行期間 4月21日(火)ー5月4日(月)
費用概算 七三〇、〇〇〇円
旅行日程 日本ーミュンヘンーインスブルックーベニスーフィレンツェーソレント(六泊)ーローマー日本
②オランダ、ベルギーコース(日本交通公社扱) 15日間
旅行期間 4月25日(土)ー5月9日(土)
費用概算 六九八、〇〇〇円
旅行日程 日本ーソレント(六泊)ーアムステルダムーハーグーロッテルダムーブリュージューアブリュッセルー日本
③イタリア古都めぐりコース(阪急交通公社扱) 15日間
旅行期間 4月20日(月)ー5月4日(月)
費用概算 七五〇、〇〇〇円
旅行日程 日本ーインスブルックーベニス(二泊)ーフィレンツェーアッシジーソレント(六泊)ーアムステルダムー日本
④会議のみのコース(日本交通公社、阪急交通公社共同扱) 11日間
旅行期間 4月24日(金)ー5月4日(月)
費用概算 五五〇、〇〇〇円
旅行日程 日本ーローマーソレント(六泊)ーアムステルダムー日本
「開催国主催の旅行」
会期中の小旅行・観光
ソレント市内美術館、ポンペイ遺跡、ナポリ湾、その他が計画されています。
会議後の小旅行として
ローマ、フロレンス、ピサ、オルビエト、ソレント(七日間)
ベニス、アシジ、フロレンス、ローマ、ソレント(十日間)
シシリ、あるいはアリア行(五日間)
が組まれています。

吉岡弥生賞推せんについて

昭和六十二年吉岡弥生賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛に推せん下さるよう、お願いいたします。
締め切り期日は本年末日までに願います。

常任理事会議事録

日時 昭和61年2月22日
場所 日本女医学会会館
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、福永、藤井、丸山、三好、八木
欠席者 なし
庶務報告 明石常任理事
1月25日 理事会及び定款委員会開催
1月28日 日本女医学会誌百五号、会費請求書、振込用紙、西太平洋地域会議旅行案内、年金パンフレット(東京都内支部)を発送
2月6日 国連NGO連絡会へ佐野常任理事出席

2月9日 学術研究助成選考委員会開催
2月11日 大阪府女医学会総会へ山崎会長出席
2月14日 赤松良子さんウルグアイ大使赴任パーティーへ山崎会長出席
その他
(1)厚生大臣今井 勇氏、厚生政務次官丹羽雄哉氏より就任挨拶あり
(2)労働省婦人局長に赤松良子氏退任と佐藤ギン子氏就任挨拶あり
(3)ウルグアイ東方共和国大使赤松良子氏就任挨拶あり
(4)日中友好協会全国婦人委員会より役員選出の通知あり
(5)故中島妙子先生遺族より香典の礼状あり
連絡事項
一、日中医学協会より日中肝細胞癌肝炎シンポジウムの開催について

日時 昭和六十一年二月八日(土)ー九日(日)
場所 順天堂 新館五階
一、東京都生活文化局より第三十八回婦人週間実施について
テーマ 女性の能力や役割についての固定的な考え方を直そうー男女雇用機会均等法の施行を契機にー
期間 昭和六十一年四月十日ー十六日
三、日本弁護士連合会よりシンポジウム開催について
テーマ これからの家族ー今あらためて問う家事、仕事、老人介護
日時 昭和六十一年三月八日(土)午後一時三十分ー四時三十分
場所 新宿区立四谷公会堂
九木常任理事
二、二月分 別紙どおり報告
各部報告
(学術部) 藤井常任理事
学術研究助成授与者として五名決定する。
(事業部) 「日本女医学会しおり」の印刷の出来上がりを持って、日本女医の実態調査の発送をする。
(広報部) 八木常任理事
日本女医学会誌掲載の各部報告の寄稿を願いたい。
(渉外部) 佐野常任理事
今年四月国際女医学会西太平洋地域会議後、Drモラニー来日の際

第二十四回国際女医学会会議参加のご案内
国際連絡書記 藤井 儔子
会期 一九八七年4月26日(日)ー5月2日(土)
開催地 イタリア・ソレント
ソレントはローマから少し南に下った市です。国際女医学会の開催が三年に一回と変更になって最初の開催地となります。
すでに会誌でお知らせしましたように、会議の主題が「青年期ー医学・心理・社会面」と大変広い専門領域を含みますので、日本からも六演題発表予定です。産婦人科、耳鼻科、内科、皮膚科、公衆衛生、薬理の先生方によります。
今回は特に、若い先生方も含め大勢の方の参加を希望しております。テーマはまだ決まっておりますが、国際会議では各国から一名ずつの若い女医(四十歳以下)が参加して開かれる。若い女医の公開討論会が計画されています。登録費は半額に、滞在費は無料となります。希望者は連絡下さい(8月20日までに国際連絡書記藤井へ)
会期が日本での連休と重なりますので、一般の人々の海外旅行増加の影響が考えられます。航空機の手配その他を考慮し、旅行者の方々には参加者のまともな本年12月末までに行ないたいと考えております。登録業務も旅行者が担当しますので、それぞれの旅行者にお申し込み下さい。

日本交通公社国内海外団体旅行 日本橋支店
平田グループ Tel〇三二七六八一九
阪急交通社トラベルプロモート
中村グループ Tel〇三〇五九二二三
登録費 会員 9月30日まで 六十万リラ
12月31日まで 六十四万五千リラ
12月31日以降 六十九万リラ
同伴者 一率に四十万リラ
キャンセルは 2月20日前 七五%返還

プログラム概要
4月26日 4月27日 4月28日 4月29日 4月30日 5月1日
学術講演会 午前 午後 午前 午後 午前 午後 午前 午後 午前 午後
展示 午前 午後 午前 午後 午前 午後 午前 午後
ソシアルプログラム 午前 午後 午前 午後 午前 午後 午前 午後

場所 ホテル・オークラ 山里
会費 一五、〇〇〇円

〔国際女医会〕 藤井国際連絡書記
・国際女医会西太平洋地域会議に
ついて
昭和六十一年四月十一日〜十二日、
台湾にて開催され日本からは十八
名の参加者が予定されている。そ
のプログラムが届いている。
演題提出者は、大原一枝先生と大
森安恵先生である。

第二十三回国際社会福祉会議が、
昭和六十一年八月三十日〜九月五
日まで京王プラザホテルで開催さ
れる。

・第二十回国際女医会会議について
会期 一九八七年四月二十六日
〜五月二日まで

開催地 イタリア・ソレント
メインテーマ 青年期医学・心
理・社会面

演題締切 一九八六年四月十五日
までに延期
AIDSに関する特別セッション
の演題募集の追加

締切 一九八六年六月三十日

議事

一、昭和六十年度一般会計収支現計
書及び昭和六十一年度予算案につ
いて
別紙資料に基づき検討する。
二、定款施行規則について
会員、準会員、評議員について種
種検討する。定款施行規則改正に
あたり事前に厚生省へ問い合わせる。
三、その他

(1)昭和六十一年度理事会および常
任理事会開催予定について
別紙と併せて決定する。
(2)市川房枝記念会より維持費納入
について
一万円支払う。
(3)埼玉支部へ予備評議員の選出を
依頼する。

り報告
(5)ポストスケール、風呂敷の在庫
について
風呂敷の在庫については新卒入
会者に記念品として贈呈するが
ポストスケールは会員の方たち
に購入を願う。
(6)「日本女医会しおり」が出来あが
ったので、入会のお勧めを願う。
(7)昭和六十年度会務報告資料とし
て各部より事業内容を提出して
もらう。
(8)難民を助ける会へ役員有志で寄
付をする。

報告事項
(1)吉岡弥生賞受賞者
三神美和(世田谷支部)
(2)荻野吟子賞受賞者
荒川あや(中央支部)
小俣喜久子(都下東支部)

以上
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、野沢、三好

理事会議事録

(3)学術研究助成授与者
申込者十八名のうち審査の結果
五名を決定する。
稲垣千代子 神経組織における
CL-ATPaseの
免疫組織学的証明
由紀子 家族性異常アルブ
ミンの基礎と臨床
に関する研究
武内ゆみ子 T細胞の分化、選
択的増殖機構にお
ける胸腺の役割に
関する研究
武市 早苗 組織化学分野への
定量分析法導入と
その法医学的応用
斎藤加代子 神経皮膚症候群に
おける皮膚病変の
細胞生物学的検討
(4)会員名簿勘定収支報告および広
告協力会社名について
会員名簿発行に際し別紙のとお

日時 昭和61年4月26日
場所 日本女医会 会議室
出席者(敬称略)
山崎、久保田、佐藤、明石、石原
佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、
福永、藤井、丸山、三好、八木、
石津、稲生、井上、川口、小出、
小暮、関口、南雲、二村、野本、
野呂、橋川、藤田、添田、西山、
山口
欠席者(敬称略)
小俣、石川、鶴川、大原、野中、
三神、山本
庶務報告 三好常任理事
3月22日 理事会、荻野吟子賞

学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者が
ありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるよ
うお願い申し上げます。

一、助成の趣旨

医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額

総額一五〇万円(五〜六件)

三、申込手続

(1)応募資格

入会継続三年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグ
ループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の
中心的役割をになうものであること)

(2)助成期間

一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要
する。

(3)応募方法

本会所定の用紙に、黒インキで記入。
一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4)申込期間

昭和六十一年十二月二十五日必着

(5)選考および発表方法

選考委員会において選考の上、昭和六十二年三月開催の日本
女医会理事会において決定し申請者宛通知する。

(6)助成金の贈呈

昭和六十二年五月開催の日本女医会総会の席上。

(7)受賞者の本会に対する義務

昭和六十三年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙二
枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8)送り先 日本女医会本部(〒150 東京都渋谷区渋谷一八八七
電話 〇三三四九八〇五七二)

学術講演研修会のご案内

日時 昭和61年10月11日(土曜日)午後3時
会場 新宿・ホテルセンチュリーハイアット

▽特別講演

「内分泌学の最近の進歩
——特に新しい活性ペプチドを中心に——」
京都大学医学部内科教授 井村 裕夫

▽吉岡弥生賞受賞者講演

「皮膚疾患におけるアレルギー学的諸問題
——蛍光抗体モノクローナル抗体などを用いて——」
東京女子医科大学付属第二病院教授 平野 京子

懇親会 午後5時

会員の消息

*金井 美津(文京支部)

東京女子医専・昭和二十九年卒

月刊誌「大法論」の昭和五十年十月
号より先生が執筆しておられた診療
の小窓は、十年間連載され読者の絶
賛をうけて、このたび一冊の本とし
て出版された。先生が地区医療に専
念される下町のカルテより、浮き彫
りにされた素朴な医師と患者の交流

が、一つの大きな健康論を編み出し、
「三十五歳、まだ大丈夫と思う人ほど
危い成人病」と題して出版されたの
がこの本である。第一線の開業医金
井美津先生が綴る本書は、医師も患
者も気軽に接することができるユニ
ークな本である。
申込先 〒102千代田区麴町四の四
かんき出版
TEL 03 7181 8011
定価 一、〇〇〇円

3月26日 選考委員会開催
第二十一回国連婦人
の向上委員報告会へ
山崎会長出席
3月27日 国連NGO委員会へ
野本理事出席
3月31日 婦人セミナーの動向
をもとめての講演会
へ山崎会長出席
4月19日 昭和六十年度の会計
監査を行なう
その他
(1)故木阪ユク先生遺族より香典
の礼状あり

〔事業部〕 石原常任理事
「女医の実態および意識調査」の
アンケートの返事が、現在五千通近
く集まっている。
〔学術部〕 橋本常任理事
第九回学術講演研修会について演
題を次のように予定している。
特別講演演題
「内分泌学の最近の進歩——特に
新しい活性ペプチドを中心に——」
吉岡弥生賞受賞者講演演題
「皮膚疾患におけるアレルギー学
的諸問題——蛍光抗体モノクロー
ナル抗体などを用いて——」
〔会計部〕 福永常任理事
昭和六十年度会計監査を終了する。
職員給料を決定する。
〔庶務部〕 野沢常任理事
先月の理事会において役員有志で
募金した一五、四六〇円と会員か
らの寄付金を合せ一八、一九一円
を難民を助ける会へ送金する。
〔国際女医会〕 藤井国際連絡書記
(1)一、六〇〇名分の国際女医会
費を送金する。

一、昭和六十年度一般会計収支決算
書および昭和六十一年度予算案に
ついて
別紙資料にもとづき検討し決定す
る。
二、総会について
会務報告、議題、次第について検
討し決定する。
(次第については、理事会後変更
あり。)

三、荻野吟子賞規定について
別紙資料にもとづき検討し決定す
る。
四、定款施行規則について
「名誉会長を置くことができる」
とする内規を作成し三神前会長
を名誉会長に推薦する。
・定款(評議員会)第三十条 三
・評議員会の議長は、出席評議
員の互選によって定める。ただ
し理事を兼任する評議員は、議
長になれない」とのことから、
かねてより、検討中であった評
議員と理事を兼ねることは可能
である。
五、その他

一、市川房枝記念会より昭和六十
一年度婦選会館講座案内あり
二、労働省婦人局より第十一回婦人
問題会議の開催について
テーマ 女性の能力や役割につい
ての固定的な考え方を
直そう——男女雇用機会
均等法の施行を契機に——
場所 東京(日経ホール)
期 間 昭和61年5月30日(金)
会 計 報 告 橋川理事
三月分別紙どおり報告 承認
各 部 報 告 佐野常任理事
〔渉外部〕 モラニー先生歓迎会に出席の役員
有志に礼あり。
三月二十七日国連NGO国内委員
会に出席の野本理事より報告あり
〔広報部〕 八木常任理事
会誌百六号を四月二十五日発送。
会誌用の原稿用紙を作成する。

(2)国際女医会西太平洋地域会議が
四月十一日、十二日台湾にて開
催され、日本から会員十六名と
同伴者二名が参加する。演題提
出者は二名。
(3)第二十回国際女医会会議につ
いて
・演題提出者六名あり。
・日本交通公社と阪急交通社に
旅行コースの作成を依頼する。

(1)国際女医会西太平洋地域会議開
催について
次期開催地として日本での開
催が可能であるか、今後検討
する。
(2)日中医学協会よりの依頼につ
いて
寄付できる他事業の紹介を願
うとのこと、なるべく個人
での加入の勧めあり。

評議員会議事録

以上
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、野沢、三好

日時 昭和61年5月25日(日)

場所 京王プラザホテル(東京都
新宿区西新宿二二二)

午前11時2分開会

司会 明石 み代
社団法人日本女医学会評議員会開会に
際し

評議員数 一一一名

出席数 七八名

記名委任数 一六名

白紙委任数 六名

以上のとおり日本女医学会定款第二
十七条の定足数に達し評議員会が、
成立する旨の報告あり、開会を宣す。
冒頭、安部マサ会員(宮城支部)
よりオプザーバーとして出席を認め
てほしい申し出あり。承認
会長挨拶 山崎 倫子
報告

一、会務報告及び事業報告

南雲 君代
配布済みの資料にもとづいて報
告あり

二、昭和60年度特別会計報告

石川 文子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医学会記念事業基金会計
年金会計

ルーペンダン会計

以上について配布済みの資料に
もとづき報告あり

議長選出

倉島摂子(議長、議長席に着く)

議事

第一号議案

一、昭和六十年年度一般会計収支決算

丸山 芙実

配布済みの資料にもとづいて説
明あり

原案どおり可決

二、剰余金処分案

丸山 芙実

次期会計へ繰り越すことに原案
どおり可決

添田 百枝

会計監査報告

監査の結果適法かつ正確であるこ
とを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和六十一年度事業計画案

庶務部 二村芙美江

学術部 橋本 葉子

事業部 石津 澄子

渉外部 野本 照子

広報部 小出つる子

原案どおり可決

第三号議案

昭和六十一年度一般会計収支予算
案

福永ひろ子

第四号議案

次々期総会開催について

山崎 倫子

次期開催

大阪

次々期開催

東京

原案どおり可決

第五号議案

名誉会長推薦について

山崎 倫子

三神美和前会長を名誉会長に決
定

司会者より閉会を宣し終了

午後零時8分開会

議事録が正確であることを証する
ため議長の署名捺印をする。

議

長

倉島 摂子

昭和61年5月25日

議

会員動静

評議員(敬称略)

茨城支部 荷見ヒサ子

京都支部 石崎富子

予備評議員(敬称略)

茨城支部 内田さく

予備評議員辞退(敬称略)

都下西支部 水川安子

入会会員(敬称略)

岩手支部 根本瑩子

埼玉支部 白幡真知子

千葉支部 高室トシ

新井裕子

藤井澄子

台東支部 朝岡栄子

清川貴子

中野支部 溝口昌子

目黒支部 仲村和子

港支部 田畑久美子

神奈川支部 矢崎宏子

橋本絹子

静岡支部 宮前京子

三重支部 小沢裕子

奈良支部 黄田純子

大阪十支部 丸山優子

和田彰子

集記

吉岡智代子
兵庫支部 大石宏子
広島支部 宗像壽子
山口支部 田邊若子
徳島支部 岩佐保津美
高知支部 高橋竹代
福岡支部 中島智代子
林 美智子

佐賀支部 加藤美千代 大下晴美
力武典子
宮崎支部 柳田喜美子
物故者会員(敬称略)
台東支部 菅井 孝
目黒支部 染谷万喜
徳島支部 三谷泰子



児」の話題も、テレビの映像となり、
活字となつて流れている。
兄ベトちゃんを思い、その回復を
一番にねがっているのは、弟ドクち
やんであろう。主治医(女医)フォ
ン博士とともに元気に帰国される日
の早からんことを祈る。
* * *

梅雨というのに雨の少なかった東
京に雨が降り、アジサイの花もその
紫が滴るように美しく咲いています。
たくさん届いた玉稿を嬉しく、感心
したり、また十年後の会誌にはどん
な記事・話題が載るのだろうと思ひ
ながら楽しく仕事をしています。
(藤田)

☆一七七四年、わが国への西洋医学
導入のもとになったともいえる「解
体新書」が出版され、二百十二年が
経った。某誌によると、名大医学部
酒井教授が長年のご努力の末、この
たび「解体新書」の原書である「タ
ーヘル・アナトミア」の全訳を完遂
され「ターヘル・アナトミアと解体
新書」と題し出版されたという。
江戸時代より二百余年、日本の、
世界の医学は先人も、われわれも夢
想だにしなければならぬ進歩を遂げ続け
ている。
☆慶大医学部飯塚教授らのグループ
による「赤ちゃんの産み分け」の女
子産み分け、六例成功」のニュース
は活字となり駆け巡っている。
☆ベトちゃん・ドクちゃんですっか
り有名になった「ベトナムの二重体

昭和61年7月20日 印刷
昭和61年7月25日 発行
編集人 八 木 貞 子
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1
8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
TEL (498) 〇五七一
5-16 (815) 六四一五
株式会社 金剛出版